

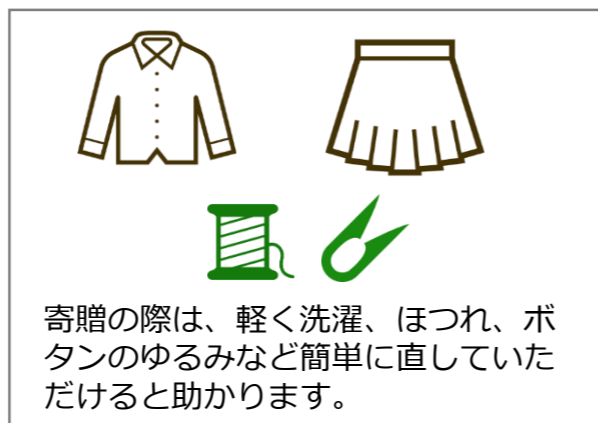
彩橋小中学校の学用品リサイクル活動

彩橋小中学校PTA事務局では、まだ着られる物、使える物を皆で譲り合って、家計にも地域にも環境にもやさしいリユース・リサイクル事業を行っています。詳細は、下記までお問合せください。

- ・受付期間 いつでもOK
- ・提出場所 学校事務室
- ・募集対象 式服、体育着、赤白帽子、制服
- ・譲渡方法 事前にお電話にて在庫をご確認ください。

お問合せ

彩橋小中学校PTA事務担当：吉田 098-977-8102※水～金14時～17時



島パーラー浜比嘉店オープン!

2019年11月にうるま市地域おこし協力隊卒業生の向井裕美さんが、浜比嘉島に「島パーラー浜比嘉店」をオープンしました。

向井さんは浜比嘉島の協力隊として、地域の方々と交流を深めてきました。その中で、飲食や地域情報の提供を通して観光客と島民の人達に喜んでもらい、笑顔が生まれる場所を創りたいと考え、徐々に準備を進めてきました。

お店は比嘉漁港とアマミチューのお墓の目の前で、観光客も多く通る場所にあります。比嘉区にも近く、島人と向井さんがゆんたくする姿も見られます。

提供しているメニューには特産のモズクを使ったものもあり、観光シーズンに合わせて、新メニューの提供も予定しているそうです。



- メニュー (税込)
- ・ポークたまごおむすび 330円
 - ・もずくらムチャウダー 330円
 - ・島ロゴキーホルダー 800円
 - ・ビールやソフトドリンクも販売

問合せ



PROMOTION URUMA
一般社団法人プロモーションうるま

TEL:098-923-5995

担当：菊地

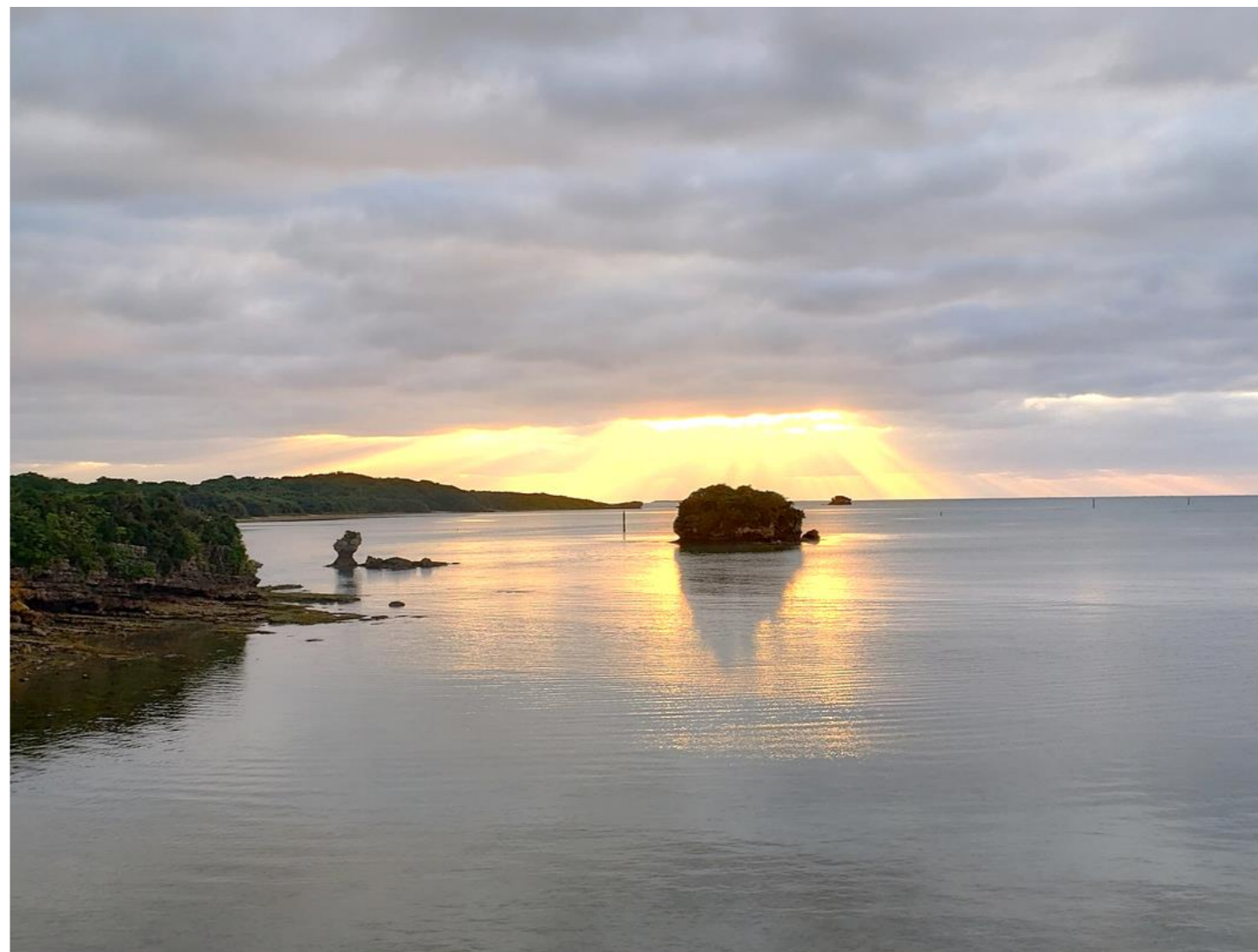
2020年
2月号
不定期発行

しましま通信

発行：(一社)プロモーションうるま

懐かしい未来があるイチチぬ島々

与勝半島の屋慶名から見えた初日の出です。浜比嘉島や津堅島などの島々が光に包まれている神秘的な光景でした。



あなたのナリワイ応援ゆんたく会開催

1月16日（木）に山形県鶴岡市で“小さなナリワイ起業講座”を開催する井東敬子さんをお招きし、ナリワイづくりの始め方や地域への影響について学びました。

小さなナリワイは、好きなことや得意なことを活かして、小さなビジネスを生み出すための手法です。この「小さな」の目安は月3万円の利益を生み出すこと。鶴岡市では5年間で65名の方が起業し、お店を持つ方なども増えてきたそうです。ナリワイの秘訣は、「好きからスタート」「小さくスタート」「60点でスタート」すること。

そうした取り組みが地域でたくさん起こることで、少しずつ地域の困りごとが解決したり、人間関係が育まれるなど、地域に小銭と笑顔が巡り、だんだんと地域が元気になってきているそうです。

好きなこと



自分・友達の
ささいな困りごと



ナリワイ起業
利益：月3万円

ナリワイづくりの事例

農業のこともっと
学びたいなあ



柿の木44本の
面倒みでくれ～



柿の葉茶の開発



ナリワイづくりのオススメ本

月3万円ビジネス 著者：藤村靖之

この本は講師の井東さんが「鶴岡ナリワイプロジェクト」を立ち上げるきっかけになった1冊。「借金をしない、固定費（家賃等）ゼロ」「地域や社会に良いことしか仕事にしない」「複業＝複数の仕事で収入を得ること」「余計な支出を減らす」というナリワイを始めるにあたっての基本が詰まった1冊です。晶文社（発行：2011/7/2）



あまり使っていない家を探しています



- ・お仏壇はあるけど、日常的に使う予定は無い
- ・住んでいなくて風通しや草刈りなど管理に困っている方
- ・起業家など島でのチャレンジャーを応援したいという方



石川優子さん
(市移住定住コーディネーター)

あまり使っていないお家を、地域のために活用できる方法があるかもしれません。お気軽にご相談ください。
※行政が空き家の改修や修繕を行うわけではありません。

TEL 080-8352-2655

お試し移住、宮城区で始まりました

お試し移住は、島にある空き家を活用して移住希望者の方に1週間程度暮らしていただき、島での生活を体感してもらう取り組みです。

今年は、宮城島宮城区のお家を使わせていただき、11月中旬から2月中旬まで開催します。詳細は下記の通りです。集落案内や行事への参加などで地域に混ぜていただくこともあります。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



滞在した参加者の感想

今は東京に住んでいるが沖縄県中部の出身。帰省した時に足を運んだ島しょ地域の印象が良くて、お試し移住に参加しました。とても居心地が良くて移住したい気持ちが膨らみました。

沖縄への憧れがあったが、島という地域で暮らす難しさも感じた。言葉は難しかったが、少しずつ理解していきたくと思います。

▲参加者とお世話係のゆんたくの様子